

「佐藤淳」 ノーブレス・オブ・ルージュ

朝倉幸子 TH-1

illustration: 向井一貞

■ Nervous

あるパーティ会場の、ボーイさんの通り道。絨毯の上に小さな紙屑が落ちている。と、姿善き男性がサッと拾ってポケットへ。アララ、神経の細やかな輩がいらっしゃる。目が合ってニヤリ、構造家・佐藤淳先生じゃないですか。穴あけパンチのマルが床に落ちているっ、ゴミがゴミ箱の横に落ちているっ、と怒りが湧く。「社会人としてあり得なあいっ！」怒鳴っても直らない弟子たち。ウムム、本気の嘆きではなさそうね。この方の心は、深海のように静か。何事にも寸分動じていない、とお見受けします。

■ Backstage

「木村ジイの背中を見て育った」と、木村俊彦先生の最後の門下生は、過ごした4年を表現する。本誌2009年11月号での構造家・渡辺邦夫先生との対談でも、随所に木村イズムが。現場で起きた問題は、その場で計算して答えを出すから、TH-1での施工中も、監督たちの信頼と人気は高いのです。

独立する時の師匠の言葉「建築家の言うことをよく聞いてやりなさい」を常に頭に置く。そして、いつも空間を思索している建築家を尊敬する。その思いは施工者としても同感なり。建築家はこんなものできないかな、と相談してくるばかりではないらしい。漠然以前、「ぼんやりとしたイメージが……」という段階からかかわることも多いとか。思いつきのスケッチからポロッとその建築の骨子が生まれることもある。「自分は、建築家から引き出しただけ」。裏方の醍醐味を愉しんでいる佐藤淳先生。広い！

■ Safety

何のために建築を？ 第一は安全を守るため、人の命を守るのが仕事と言い切ることに感動する。ワタンはジェラシーと判断していますが、危うい構造家という人もイマスね。こんな失礼な問いにも「け

っこうな安全率をみていますよ」と笑顔なのです。理系が好きで、たまたま力学に育った人が、その能力を持ったのだから人の命を守る。「安全性の責任は、あくまで構造家にある！」。そのために勉強を続けると断言される、純粋な大のオトナです。

そのすべてを知ることも操ることもできないのが自然現象。けれど、もうちよっとだけ知ったら、もう少しだけの命を助けられるかもしれないでしょうと、これも実に納得できます。

間違いをしでかして落ち込む若い構造の人に、「開き直るくらいの心が必要な時もある」と、説く。だって、皆が安心して暮らせるように、必死で建築をつくっているのだから。誰かがやらねば建たないのだから。まさにノーブレス・オブ・ルージュ。責任を果たすからこそ、心のゆとりが生まれ、楽しい建築を生み出す。

■ Windsurfer

水！ 風！ 波！ 空！ テンション材！ 堅いボード！ 身体！
こんなに複雑でヨットよりもっと力学的なものはない。だから面白いのだと、生き活き。少しはプライベートライフをと、ウィンドサーフィンに話を転じたら、やはり身体中が構造に浸っておられるようですね。忙しい今でも、一・二年に一度は波に乗る。それしかできないのではなくて、できている。海ではなくて琵琶湖で泳げたのは、大津育ちだからこそ。田舎での楽しかった子供時代。すべてにポジティブな一流のアスリートと同じ発想をする。構造も「できる！」と決めてかかり成立させるのでしょね。

このヒトは哲学者、と感じた10年前と変わっていない。哲学頭脳に猪突猛進型の性格がエンジンとなって、構造界を引っ張るのは間違いないでしょう。

いきなり、ドンドンとTH-1の膜屋根を叩いた時には驚きました。実感主義と聞いてはいましたがね。大丈夫とお墨付きいただいて一安心です。

